



生活者ネットニュース



2025.4.20

168号

■発行: 多摩・生活者ネットワーク ■発行責任者: 武内好恵 ■連絡先: 〒 206-0014 多摩市乞田 1227-1-112
■TEL: 042-376-5758 ■FAX: 042-376-8854 ■https://tama.seikatsusha.me/ ■E-mail: office@tama-net.jp

当初予算は、歳入は堅調、中央公園もオープンし市政は順調かのように見えます。しかし、ウクライナ戦争に端を発した石油高騰による物価高や賃金上昇により歳出は大幅

に上回りました。その上、今後は、総合福祉センターを含む高齢者施策や市庁舎建替え、小学校体育館空調、など課題は山積み。何を守り、何を諦め舵をきるかが問われます。

■年を重ねても地域で安心して暮らせるまちに

一人暮らし高齢者がけがや病気で急に介護が必要になったという相談を、短期間に何度もいただきました。多摩市の一人暮らし高齢者は25年前に比べて1万世帯増えているうえ、今年度から団塊世代すべてが後期高齢者となります。一人暮らし高齢者は今後さらに増える見込みであり、今以上に備えるよう求めました。

また、介護保険制度が始まった2000年、家族（特に女性）が担ってきた介護は社会全体で担うようになると期待されましたが、多摩市では今も介護者の1割以上が複数人を介護しています。

「育児・介護休業法」に基づく介護離職予防はもちろん、市は介護者の暮らし、人権を守る視点で介護者を支えていくべきです。

■地方公共団体は女性の福祉や人権の尊重を重視し、必要な支援策を講じなければならない

コロナ禍では、女性の割合が多い非正規雇用者の失職、

DV被害や自らの命を絶つ女性が増加し、もともと弱い立場の女性がより追い詰められたことが浮かび上がりました。昨年施行された「女性支援新法」は、それまで戦後に制定された「売春防止法」しかなかった女性への支援が、ようやく今の時代に生きる女性の福祉、人権の尊重、擁護、男女平等の理念に基づく支援へ変化したものです。第4次多摩市女と男がともに生きる行動計画の中間見直しのタイミングでもある今年度、市長が市政方針でも予算でも触れなかったことは、困難を抱える女性たちへの共感意識が乏しいと言わざるを得ません。新法を受け、これまで縦割りと言われてきた女性支援に対し、女性センターはどう機能を高めていくのか質問しました。



市議会議員 岸田めぐみの代表質問

2025.3月議会より

市議会議員 岩崎みなこの予算討論



■リニールオープンングのグリーンライプセンターについて
グリーンライプセンターをご存じですか。1990年、多摩中央公園の東側に「自然とのふれあい」の拠点として生まれて以来、20年間、市民の力を借りながら緑化相談やみどりの市民活動を支援してきました。2011年から昨年までは、恵泉大学とも連携し、花とみどりの拠点として愛されてきましたが、今年度からは新JV（複合事業者）によって「みどりと環境の拠点」として機能を強化します。プロポーザル（コンペ方式）で選ばれたとは言え、評価の内容が非公表であったり、必要とされるスキルの点から不安は残りますが、新しいスタートを切るのは市も市民も事業者も一緒。共に学び、課題を共有して拠点としての機能を発揮してもらいたいものです。

■子どもまんなかの予算と言えません

物価高騰は中学校の標準服にも影響し、この春は5万6万3000円です。就学援助費による支援を求めようにも、対象は生活保護基準の1・4倍程度の世帯に限られます。この物価高が10代のお子さんを持つ家庭を相当苦しめていることを市は認識すべきです。

また施政方針の中では優先順位が高いと述べた「小学校体育館の空調と断熱」は当初予算には計上されず、「この夏に空調は付きません」との答弁です。今年も猛暑は避けられないとわかっていながら、これでは子どもまんなかとは言えません。

いろいろ不安はありますが、生活者ネットは2025年度多摩市一般会計予算に賛成しました。しかし、これからの補正予算、決算を注視します。



テニスコートにおけるマイクロプラスチック対策

世界的な問題となっている「海洋プラスチックごみ」は長期にわたり海に残存し、地球規模での対策が必要となっている。中でもマイクロプラスチック(5mm未満)の海洋生態系への影響が懸念されている。

2020年の多摩市気候非常事態宣言発出後、スポーツ振興課では「多摩市屋外スポーツ施設管理更新計画」を策定。テニスコートの砂入り人工芝におけるマイクロプラスチック流出抑制実証実験を人工芝製造メーカーと一緒に開始し、今も継続している。

環境省も人工芝からのマイクロプラスチック流出防止リーフレットを作成しているが、実証実験を行っているのは全国に先駆けた取組で、24年3月には「テニスコート砂入り人工芝におけるマイクロプラスチック流出抑制対策ガイドライン」を作成した。

そこで、奈良原公園(鶴牧4)のテニスコートにおける実証実験の様子を見学した。一般的にテニスコートはクレー、ハード、砂入り人工芝と3種類が主だが、足への負担が軽く稼働率が高い砂入り人工芝が主流となっているそうだ。市内には9か所28面のテニスコートがあり、このうち25面が砂入り人工芝。テニスコートごとにそれぞれのメーカーと実証実験を行っているとのこと。排水溝には三段階でフィルターを設置しており、第一段は落葉用で、第二、第三はマイクロプラの粒度に応じたフィルターになる。



コートブラシもプラ素材から自然素材に

また排水溝の蓋の上部と下部にもフィルター素材を取り付け流出を抑制。複数のフィルターを設置することでマイクロプラの流出を抑えている。それでも砂入り人工芝のマイクロプラは1mm未満で全てを取り切れるわけではない。

定期的を実施しているフィルター交換はテニス



指先のマイクロプラスチック



第二段階のフィルター



コート利用者と一緒に行うことで啓発にも繋がっている。

一般家庭でも人工芝を設置しているところが見受けられるが、知らず知らずにマイクロプラが川へ流れ、海へ流れていくことを啓発していくことが大切である。

新装!! 誰もが楽しめる中央公園へ

カフェ・インクルーシブ遊具など新設しオープン。今後は若者や造園業者の皆さんによるJVが運営します。

子育てとともに高齢、障がい施策にもつながる運営に期待!



上・左:車いすでも園芸作業や遊びができる花壇や砂場



上:池の周りはすっきり見通しよく
左上:ダイナミックな遊具は大人気
左下:焚火はプレイパークならではの

とあります。3月25日に東京地裁は文科省の請求を認め、教団に解散を命じました。予想されていたこととはいえ、私にとっても大きな区切りとなります。

2年前、旧統一教会が多摩市に土地を購入したと知り、黙っていたら多摩市民に被害をもたらされる可能性があると考え「旧統一教会はNO!」の活動を始めました。それは教会が単なる宗教団体ではなく、霊感商法や高額献金の強要による被害、さらには家庭崩壊にまで至らせた反社会的集団だからです。以来、署名集めや監視活動など一市民として行動してきました。

ようやく解散命令が出ましたが、これで終わりではありません。宗教法人でなくなっても宗教団体として残ります。被害者にきちんと補償をさせなければなりません。市内にある旧統一教会の土地の今後についても予断を許しません。補償に充て多摩市から撤退してほしいと願っています。今後、引き続き旧統一教会の動きを監視しながら活動していく必要があると思います。

(H・K)

旧統一教会に解散命令が出て... 2025.4

あつの眼

